

橋本平八という彫刻家をご存じでしょうか。

橋本平八は1897(明治30)年に現在の伊勢市朝熊町に生まれ、木を彫って芸術作品を作ったことで知られる人物です。当時の日本で最も有名な美術家グループの一つ・日本美術院ではその高い技術と才能が認められ、「木を持たしては橋本君」と言われるほどでした。近代木彫のスターともいえる存在でしたが、惜しくも38歳の若さで亡くなってしまいます。橋本平八は、日本古代の美術やヨーロッパの哲学などを広く勉強し、一方では故郷である朝熊の自然に刺激を受けて、作品を作りました。特に、生命の神秘や、人間の想像を超えた自然の力に関心を寄せています。生涯のほとんどを伊勢で過ごし、彫刻を作りながら、生命や自然の秘密に迫ろうとした橋本平八。ここではその歩みと作品世界をのぞいてみましょう。



《石に就て》
1928年
個人蔵



もく ちょう ざん まい

木彫三昧

橋本平八の世界

わが人生、芸術にささげん

絵で見て読んで知る 橋本平八の生涯

イラストレーション 伊野孝行

1897年 明治三十
0歳

現在の伊勢市朝熊町に生まれる。
小さいころから近くの朝熊山や金剛證寺で遊ぶ。



22歳 大正八
1919年

このころ7時間泳ぎ続けておぼれかけ、命について考える。

25歳 大正十一
1922年

日本美術院展に《猫》(三重県立美術館蔵)が入選。
東京の彫刻界に華々しくデビュー。



10代

伊勢で彫刻を学び、彫刻家になりたいと思う。

23歳 大正九
1920年

東京で憧れの彫刻家・佐藤朝山に入門。

26歳 大正十二
1923年

関東大震災が起きたため、奈良でしばらく過ごす。お寺などをめぐり、日本の歴史を勉強。飛鳥時代の仏像が一番すばらしいと感じる。

27歳 大正十三
1924年

このころ命の研究のため7日間飲み食いせずに過ごしてみる。フラフラになったとき、物事の真理を発見したように思った。

28歳 大正十四
1925年

実の弟である詩人・北園克衛(本名 橋本健吉)と東京の世田谷で二人暮らしする。つらい貧乏生活。

29歳 大正十五/昭和元
1926年

命についての研究を生かし、ショックを受けてふるえる少女の作品《少女立像》(個人蔵)を制作。大好評。

30歳 昭和二
1927年

ふるさとの魅力に改めて気づく。朝熊の実家に帰って結婚。

34歳 昭和六
1931年

岐阜旅行にて、江戸時代の仏師・円空の作品に出合い、感動。作品を集めて日々ながめる。

35歳 昭和七
1932年

作品のすばらしさが認められ、権威ある帝国美術院から指定作家(無鑑査)に選ばれる。来客と話しているときに倒れ、亡くなる。

31歳 昭和三
1928年

自然の造形に関心を持ち、《石に就て》(個人蔵)を制作。木や石の中に生命や意思があるように思い、研究する。

33歳 昭和五
1930年

《花園に遊ぶ天女》(東京藝術大学大学美術館蔵)を制作。自信作だったが、これに満足してはいけなと思い、一部を自分で壊してしまう。

36歳 昭和八
1933年

4人目の子供が生まれ、家族6人のにぎやかな暮らし。

38歳 昭和十
1935年

作品のすばらしさが認められ、権威ある帝国美術院から指定作家(無鑑査)に選ばれる。来客と話しているときに倒れ、亡くなる。

33歳 昭和五
1930年

《花園に遊ぶ天女》(東京藝術大学大学美術館蔵)を制作。自信作だったが、これに満足してはいけなと思い、一部を自分で壊してしまう。

35歳 昭和七
1932年

前の年に正倉院宝物を見て、東洋的な美しさにめさめる。弟にテーマについて相談し、インド女性の像《アナンガランガのムギリ像》(個人蔵)を制作。

36歳 昭和八
1933年

4人目の子供が生まれ、家族6人のにぎやかな暮らし。

38歳 昭和十
1935年

作品のすばらしさが認められ、権威ある帝国美術院から指定作家(無鑑査)に選ばれる。来客と話しているときに倒れ、亡くなる。

昭和四十
1965年

昭和四十

伊勢の人々の協力により、
伊勢市の金剛證寺奥の院
入口そばに橋本平八顕彰碑が
建てられる。



《石に就て》を偲んで置かれた
宮川上流産の石

顕彰碑



没後90年 橋本平八展

伊勢が育んだ近代木彫のスター、
15年ぶりの回顧展！

2025年8月2日(土)▶10月13日(月・祝)

午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

三重県立美術館(津市大谷町11)

〈後援〉伊勢市、伊勢市教育委員会

休館日

毎週月曜日

(8月11日、9月15日、10月13日は開館)

8月12日(火)、9月16日(火)

料金

大人1000円

学生800円

高校生以下
無料

津の三重県立美術館には、この夏、
橋本平八の作品が大集合！



◀三重県立美術館
Webサイト

〈助成〉公益財団法人岡田文化財団 〈発行日〉2025年6月27日 (禁・無断転載)

〈発行〉三重県立美術館 津市大谷町11 TEL:059-227-2100 FAX: 059-223-0570 <https://www.bunka.pref.mie.lg.jp/art-museum/>

〈デザイン〉赤波江春奈+日下潤一

兄と弟

東京でモダンな詩を書いたり、雑誌を作ったりしています。



わたし、北園克衛。橋本平八の実の弟です。

日本美術院の展覧会で石の彫刻を見ましたよ



伊勢に住む兄にはなかなか会えません。でも、よく手紙をやり取りします。

わたしが東京で勉強できるよう、応援してくれたのは兄でした。わたしは兄に学び、助けてもらいました。



詩に絵にデザインに編集に打ち込んでいたので。



そう、わたしに芸術を吹き込んだのはこの兄だったのです。あなたの情熱がわたしに宿り、

石

最近、石について考えている。もしかして、石って自然が作った作品なのかも…？



近くの川で、20個ほど石を拾ってきた。



この石をモデルに、木を彫って発表してみよう。



でも、謎めいたところもなかなかすてき…



この石、山のように見える…。なにか特別なもの…「仙」がある…！

なんだこれは…どういつて…「仙」って何なの？